中学校第２学年　国語科学習指導案

日　時　平成○年○月○日　○校時
授業者　○○○○

１　教材名　近代の短歌

２　本時の指導（１/４時）

（１）目標

○「死にたまふ母」の作品群から６首を取り上げ、作品に表現されている作者のものの見方や考え方について、自分の知識や体験と関連付けて考えることができる。（C　読むこと　エ）

（２）授業構想

本教材は、歌集『赤光』に掲載されている 59 首の短歌から成る作品で、作者である斎藤茂吉が、母の死の悲しみを詠んだものである。本時では、６首について、自分の知識や体験と関連付けて詠まれた順番を考えたり、グループや全体で考えの根拠を示しながら意見の交流を行ったりすることを通して、作品の理解を深めたいと考える。

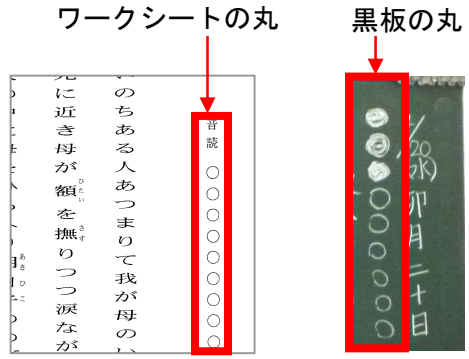
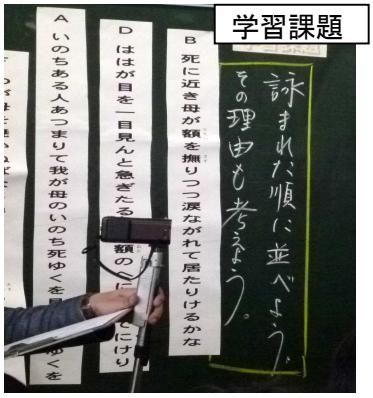
授業の導入時には、作者の生い立ちについて触れ、母との関係性を考えることで、読みを深める手掛かりとしたい。また、自分の考えをワークシートに記入したり短歌が書かれたカードを入れ替えながら意見の交流を行ったりするなど、考えを視覚的に確認することで主体的に学習できるようにする。

（３）展開

学習活動　・予想される生徒の表れ	指導の工夫	工夫
１　単元の課題を確認する。	○　本時の最後に、各自が感じた短歌のよさについてまとめることを伝える。	
２　短歌の基本事項や作者の生い立ちについて確認する。 ・短歌は、五七五七七で作られている。 ・作者はどんな人かな。	○　作者の氏名と顔写真を紹介し、イメージがもてるようにする。また、作者の生い立ち（15 歳で里子に出されたこと、当時の交通網の状況、医者になったこと）について触れ、読みを深める手掛かりとなるようにする。	
３　順番を入れ替えたＡからＦの６首を音読し、意味の分からない語を確認する。 ・「ははそはの」はどんな意味かな。	○　音読ごとに、ワークシートにある丸を塗り、音読した回数を意識したり活動を切り替えたりできるようにする。	① 視覚化 ←ここをクリック
４　６首について、詠まれた順番を考え、グループや全体で考えや理由を共有化する。 ・母親が亡くなる前に詠んだ短歌と亡くなった後詠んだ短歌に分けられそう。 ・Ｄは、「一目見んと急ぎたる」とあるから、最初だと思う。 ・Ｅは、「ははそはの母よ」が繰り返されていて悲しんでいる様子が表現されていると思う。この短歌は、最後じゃないかな。	○　生徒が６首の並びについて疑問をもったところで、学習課題を板書する。 ○　最初に個人で考え、ワークシートに記入する。その後、グループや全体で考えを伝え合うようにする。最後に、もう一度、自分の考えや考えが変わった理由を記入し、意見の交流を経てどのように考えが変わったかを確認できるようにする。 ○　グループで考えを伝え合う際は、短歌が１首ずつ書かれたカードを入れ替え、考えを視覚的に確認できるようにする。	② 焦点化 ←ここをクリック ③ 視覚化 ←ここをクリック ④ 共有化 ←ここをクリック
５　59 首全てを紹介し、作品の全体を知る。		
６　短歌のよさについてまとめる。	○　作者の表現を知り、気付いたことや感じたことを記入する。	

３　評価

・作者のものの見方や考え方について、自分の知識や体験と関連付けて考えることができたか。

	写　真	説　明
①		【視覚化】 音読が終わるごとに、教師は黒板の丸を、生徒はワークシートの丸を塗るようにしました。 このような工夫をすることで、音読した回数が明確になり、音読を重ねる毎に自分の読みが深くなっていることを意識することができました。 また、集中することが苦手な生徒にとっては、丸を塗ることで一つの課題ができたという達成感が得られ、次の活動へと気持ちをつなげることができました。 指導案に戻る
②		【焦点化】 順番を入れ替えた６首を音読する中で、一部の生徒から「順番がおかしいのでは？」、「これでは内容がつながらない。」という疑問が出ました。 この生徒の発言を聞いて、他の生徒が内容を考えながら音読し始めました。 このように学習課題に向かいたくなる気持ちをもたせることで生徒の意欲が高まり、気になる生徒を含め、全員が課題に取り組むことができました。 指導案に戻る
③		【視覚化】 最初に、個人で６首の順番を考えました。ワークシートの「最初の考え」の欄に記入するようにしたことで、頭で考えをまとめることが苦手な生徒も、自分の考えを整理することができました。 グループでの意見の交流では、ワークシートに自分の考えを記入しておいたことで、全員が自分の考えを積極的に伝えることができました。 最後に、もう一度、６首の順番を「話し合い後の考え」の欄に記入するようにしました。再度考える機会を設けたことで、短歌に書かれた内容の理解を深めることができました。また、自分の考えの変化を確認できるようにしたことで、自分自身の学びを確かめることにもつながりました。 指導案に戻る
④		【共有化】 グループや全体での意見の交流では、言葉でやりとりすることや記憶を保持することが苦手な生徒が理解できるように、短歌が書かれたカードを入れ替えながら伝え合いました。 互いの考えを視覚的に確認できることで、自分の考えとの違いに気付くことができ、主体的に話し合いに参加することができました。 指導案に戻る